

# 令和2年度九州大学法科大学院入学者選抜試験

(第2次募集)

試験問題

## 論文試験

(注意事項)

- 1 本試験問題は指示があるまで開かないこと。
- 2 本試験問題は(この表紙と白紙を除き)11頁、解答紙は2枚である。「始め」の合図があったら、それぞれ確認し、解答紙のすべてに受験番号を記入すること。
- 3 解答文は横書きとし、所定の解答欄に記入すること。
- 4 論文試験の筆記具は、B又はHBの鉛筆又はシャープペンシルを使用することとし、それに従わない答案は採点しないことがある。
- 5 ラインマーカー及び色鉛筆の使用は、問題検討のために、問題用紙及び答案構成用の下書き用紙に限り許可する。
- 6 採点は45点(30%)を最低合格ラインとして設定する。

I 次の文章をよく読んで、問(1)・(2)に答えなさい。

【出典】井上達夫『自由論』（岩波書店、2008年）6-19頁  
なお、問題の作成にあたり、原典の文章を一部加工している。

問(1) 下線部①「自由とは一定の秩序の構想なのではないでしょうか」と筆者がいうのはなぜか。450字以内で説明しなさい。

(45点)

問(2) 下線部②「調整的規制」とは、どのような規制なのか。「交通規制」以外の具体例を挙げつつ、300字以内で説明しなさい。

(30点)

II 次の文章をよく読んで、問(1)～(2)に答えなさい。

【出典】小塚荘一郎『AIの時代と法』（岩波新書、2019年）148-158頁  
なお、問題の作成にあたり、原典の文章を一部加工している。

問(1) 下線部①について、その具体的な内容を、本文の内容に即して250字以内で説明しなさい。

(25点)

問(2) 下線部②に関連して、以下の事例をよく読み、設問に対して500字以内で答えなさい。

(事例)

ある高等学校で、大学受験指導にAIを導入することが決定された。そのAIは、生徒のこれまでの成績の推移や得意科目、学外活動、性格等を総合的に考慮して、最適の大学を進学先として提案する。担任教員は推薦書作成等にあたって、AIの提案を一定程度参考にする。

このAIの内部設計をめぐって、以下の意見が出た。

A(教員)「AIは、なるべく安全圏の大学を優先的に提案するよう設計すべきだ。生徒が難関大学のネームバリューに釣られて受験した結果、浪人生になるという目には合わせたくない。」

B(教員)「AIは、なるべくランクの高い大学を優先的に提案するよう設計すべきだ。難関大学への合格実績が増えれば、我が校の評判は大いに上昇する。」

C(生徒)「AIは、なるべく多くの選択肢を提案するよう設計すべきだ。どの大学で何を学びたいかを選ぶのは自分自身である。AIに自分の人生の選択肢を狭められたくない。」

D (生徒) 「AI は、なるべく選択肢を絞り込んで提案するよう設計すべきだ。自分に最適な進学先は、高校生の自分にはよく分からない。誤った選択をしないように豊富なデータから確実な選択肢を示してほしい。」

E (保護者) 「AI は、なるべく理系の大学や学部を提案するよう設計すべきだ。文系では就職先が心配だ。親は、子供が人生全体を通して幸福であることを願っている。大学進学の前には、子供の就職問題があることを意識してほしい。」

F (官庁) 「AI は、満遍なくすべての大学や学部に分散して提案するよう設計すべきだ。特定の大学や学部へ提案が偏るとそこに受験生が集中して受験倍率に偏りが生じ、本来合格できたはずの者が多く不合格になってしまう。」

(設問)

上記 AI の内部設計に際して指針を決めるにあたり、①誰 (複数でもよい) の意見を反映させるべきで、②誰 (複数でもよい) の意見を排除すべきか。それぞれ、理由をあげて論じなさい。ただし、誰の意見の内容が正しいかは論じなくてよい。

(50 点)